

尾瀬へ

東京都世田谷区

馬場みね子

湿原の細き流れを画くがに水芭蕉萌ゆ見渡す原に

木道に立ち止まり見つ水芭蕉池塘のあたり白々煙る

夢見たる尾瀬ヶ原なり一步一步深き息吸ふ若葉の風を

眠りたる如く静けき尾瀬ヶ原綿菅揺れて夕影に映ゆ

湿原に白く続ける木道を明日踏みゆかむ尾瀬夕暮るる

馬場みね子作品「尾瀬へ」を奨励賞とする。小松高校出身で、東京に嫁がれて永年短歌に親しまれている作者である。

一連は憧れの尾瀬行きを果たされた感動が纏められた。その尾瀬を代表する水芭蕉だが、かすかな流れに沿うこの花の特徴を熟知した一、二首目や、終りの二首の静謐な暮れ方の湿原の把握など、大きく全景に及ぶのも一連の特徴である。前回、前々回の応募には、何れも花好きの作者の細部に及ぶ観察があった。今回は東京を離れ、解放された自在な心が看取される。表現の隠し味となっているのは小松で育まれ、個性となっている伸びやかさである。三首目「一步一步深き息吸ふ若葉の風を」に念願を果たした喜びに、全身が感応する作者が見えてくる。